

平成 22 年 2 月 12 日

各 位

会 社 名 株式会社 オ プ ト ロ ム  
代表者名 代表取締役社長 三浦 一博  
(コード番号: 7824 名証セントレックス)  
問合せ先 取締役管理部部長 佐藤 政治  
(電話番号 022 - 392 - 3711)

### 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 21 年 11 月 13 日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 業績予想数値の修正について

(金額の単位: 百万円)

平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正 (平成21年4月1日~平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当り当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	2,871	100	20	24	1.32
今回発表予想 (B)	2,871	76	2	6	0.36
増減額 (B-A)	0	△24	△17	△18	
増減率 (%)	0.0	△23.1	△86.6	△72.7	
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 3 月期)	3,113	△131	△205	△927	△53.20

平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正 (平成21年4月1日~平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当り当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	2,825	121	56	24	1.32
今回発表予想 (B)	2,817	95	37	7	0.42
増減額 (B-A)	△8	△26	△19	△17	
増減率 (%)	△0.3	△20.7	△33.6	△68.0	
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 3 月期)	3,099	△88	△162	△921	△52.88

## 2. 連結業績予想の修正理由について

当第3四半期連結累計期間において、当社グループは前連結会計年度に引き続き生産効率化による原価低減や販売価格の是正を始めとする諸施策を実施し、事業収益力の強化に取り組みました。

当第3四半期連結会計期間（平成21年10月～平成21年12月）において、売上高は750,640千円（前年同期比8.9%増）、営業利益は25,709千円（前年同期は営業損失62,138千円）、経常利益は6,597千円（前年同期は経常損失67,278千円）、四半期純利益は5,787千円（前年同期は四半期純損失728,154千円）となり、利益面で前年に比べ利益の赤字幅を大きく減らし、利益の黒字化転換への成果を出すことができました。

環境エネルギー事業は、CCFL（冷陰極蛍光ランプ）を用いたE・COOLの販売が順調に推移いたしました。当社はE・COOL「省電力型搭載（4段階）」など新たな製品ラインナップの充実により販売拡大に邁進してまいります。

一方、デジタルコンテンツ事業は、経済市況の悪化やコンテンツのダウンロード配信の普及などの要因からCD・DVD市場が減少基調にあり、当社のCD、DVD売上高においても前年を下回る結果となりました。このような状況に対応するために前連結会計年度から引続き実施している販売価格の適正化、製造部門におけるコスト低減策により一定の効果を上げることが出来ましたが、当第2四半期連結会計期間に発生した貸倒懸念債権の状況が悪化したために貸倒引当金16,261千円を更に積増しました。これにより、当第3四半期連結会計期間において見込んでいた利益計画を下回る結果となりました。

当連結会計年度における通期業績予想（平成21年4月～平成22年3月）の売上高は、2,871,480千円、営業利益は76,988千円、経常利益2,718千円、当期純利益6,589千円を見込んでおります。

平成22年3月期通期連結業績の推移と予想（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

（金額の単位：百万円）

	第1四半期実績	第2四半期実績	第3四半期実績	第4四半期予想	通期業績予想
売上高	583	612	750	924	2,871
営業利益	△8	△34	25	94	76
経常利益	△23	△60	6	79	2
当期（四半期）純利益	△16	△61	5	78	6

## 3. 個別業績予想の修正理由について

連結業績予想の修正理由と同様の理由によるものであります。

以上

（注）本資料に記載されている通期業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は今後の様々な要因により、大きく異なる可能性があります。